

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1670102613		
法人名	医療法人 社団 恵成会		
事業所名	グループホームめぐみ		
所在地	富山県富山市塚原195-1		
自己評価作成日	令和3年9月21日	評価結果市町村受理日	令和4年1月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人富山県社会福祉協議会		
所在地	富山県富山市安住町5番21号		
訪問調査日	令和3年10月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・開放性のある木造平屋建てを活かして、ご近所感覚で各ユニットの出入りを行っている。ユニットの中央には広場があり、交流の場となっています。レクリエーションや余暇時間を過ごしている。 ・医療面では主治医による月2回往診の医療連携をしており、健康のサポートをしています。緊急時は榊谷内科と連携し対応している。 ・天気の良い日は玄関先で日向ぼっこや飛行機を眺めたり、緑地公園まで散歩をして気分転換を図っている。回覧板も職員と共に近隣の家まで回している。 ・中庭や玄関に燕の巣があり、燕が飛んでいる様子をにこやかに観察している。 ・御利用者はゆったりと笑顔で生活出来るように、ご本人のペースに合わせて支援している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・今年度より導入したスローガン「楽しく、笑顔で穏やかに」の実践として、食べる事への楽しみを大切に支援している。昼食には、委託の調理員が加わり、出来立てのものを提供し、見た目にも楽しんでもらえるような食事の提供に取り組んでいる。 ・職員は「感染及び安全対策委員会」「研修委員会」どちらかに所属し、毎月の全体会議で2つの委員会(担当者)が交互にミニレクチャーを実施している。今年度は、『主な感染症の知識』『多職種の理解と専門性』『ポジショニングの介護』『介護記録を書く目的』等々、職員自身そして事業所全体での研鑽に繋げている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼で事業所理念を読み上げ、職員間で確認し業務に就いている。	理念は「地域の中で自然な暮らしを」としている。今年度7月に職員間で話し合い、理念に基づいたスローガンを『楽しく、笑顔で穏やかに』と新たに加え、より支援の方向性が見えるよう工夫した。その姿が日常生活に反映されるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、地域行事への参加や交流は控えている。散歩や回覧板を回す時に近所の方への挨拶をしている。	自治会へ加入し、自治会回覧などにより地域の情報を把握している。毎年、10月の地域の祭りや夏の公民館でのバーベキューには必ず参加していたが、コロナ禍により、昨年度に続き、今年度も開催が中止となった。散歩の際、挨拶等は続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会長や民生委員の方々、町内定例会議への出席を通じて、認知症に関わる相談や見学を受け付けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況やサービス内容、活動状況を地域包括支援センター・町内会長・民生委員に報告している。	新型コロナウイルス感染症の終息が見えず、面会制限を続けており、運営推進会議は、今年度これまで全て書面開催としている。議事録は、出席予定者や家族などにも郵送され周知を図っている。	令和3年1月から、議事録様式を変更し項目ごとに分り易く記載されているが、対面での会議の開催か、書面開催(報告)であるかの記載が見当たらない。開催方法についての記載について明記されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の来訪は、状況を見て実施している。	市町村担当者とは直接連絡は取っておらず、市からのメールは本部が受け取っている。	事業所においても市(保険者)の情報を直接受け取り、確認・周知できるよう、体制の整備に期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ユニット間の施錠はなく、利用者が自由に入出入りしている。レクリエーションや散歩等で日ごろからストレスを溜めない様に配慮している。毎月の全体会議で身体拘束について状況報告や話し合いを行っている。	毎月開催する全体会議で身体拘束の状況を参加者全員で確認している。施錠については、玄関については、利用者の安全のため中からは施錠されている。職員は、利用者が外に出たい場合は、その都度対応し、不便を感じない暮らしの提供に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	常にどのようにすれば気持ちよく過ごしてもらえるか伺いながら介助するように心掛けている。職員全体会議で虐待防止について話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援事業や成年後見制度について学んでいるが、現在は該当する利用者様がない。資料等回覧している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に書面を用いてわかりやすい言葉での説明を心掛けている。随時質問も受けつけ説明している。一人の説明で伝わらなければ、他管理者に説明の補足をお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に要望や些細な事柄でも気になる所がないか、お聞きし、個別対応している。	平常の面会時や電話連絡での把握に加えて、参加予定者及び家族などに意見や意向がないか呼びかけを行っている。また、利用者には生活の場面において、意向を引き出したり汲み取ったりし、全体会議で共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体会議で意見を出し合い検討する。会議以外でも問題提起時、各ユニット長が意見を伝えたり、全体会議の検討議題としている。情報が共有出来る様、他ユニットにも伝達する。	業務改善委員会を設け、職員からの意見を集め、業務の検討を行っている。また、各ユニット管理者が職員と共に介護現場に居ることから、気軽に相談ができ、実際に職員の意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が利用者に対し優しい声掛けや対応をしたり、業務について意見を伝えてくれた場合は、誉め、法人事務に報告し人事考課に反映される様に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月全体会議で内部研修を行っている。郵送やFAXなどで送られてくる介護研修についても回覧している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内で情報交換している。それを共有することで、利用者のサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活の会話や仕草から、ご本人の思いや気持ちを汲み取り、傾聴している。また、日々の記録に、言葉や仕草普段と違う様子なども記録するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の気持ち、思いに耳を傾け、話しやすく相談しやすい雰囲気作りを心掛けている。不安な事や心配事がないか遠慮なく話して頂くよう声掛けをこちらからも行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当事業所だけでなく、他のサービスも視野にいれたうえで、御本人、御家族に必要な提案を行うように、努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事、したい事が可能な限り行える様、訴えがあればすぐに対応し返答している。自己判断が難しい場合は管理者に意見を仰ぐように職員に伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の面会時や、所用で電話があった時には、近況報告を行っている。また、要望もお伺いして、良好な関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の意向を汲み取り、ドライブ時に馴染みの場所に出かけるようにしている。また、昔の写真を見たりしている。	コロナ禍となり、以前のように馴染みの場や人との交流が難しい現状を受け、携帯やタブレット端末を導入し、家族等との交流を継続している。また、昨年度より写真をふんだんに取り入れた便りを作成し、時々生活の様子や案内を加え、年に4回家族などへ郵送している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル拭きや洗濯物干しなど利用者様同士協力しながら実施している。職員が間に入り良好に会話出来るように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居が決まっても、今までの信頼関係を、大切に、今後も不明な点や介護に関する事で困り事があれば相談頂けるように伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々暮らしの中で、職員と利用者との会話、また、利用者の表情、顔色、言葉使い、仕草等、気づきの精神で把握するように、努めている。その様子を記載、申し送り時に口頭でも伝達するようにしている。	自分の思いや希望を言葉で伝えてくれる人は少ない。職員はこのことを理解したうえで、利用者の暮らしぶりに細やかな観察や声かけを大切にしている。申し送りや介護記録で情報を共有するように心掛けて日々の支援に生かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント・サマリー・生活歴等情報は、必ず再確認し、本人様との関わりだけでなく、面会に来られた御家族からも、必要に応じて情報収集を行うように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の生活の様々な場面の中での様子やひとりの時にはどのように過ごしているかを観察して、心身状態を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の中での様子の変化等、特変がある際や認定更新時に再アセスメントを行い計画を作成している。	職員は利用者2~3名の受け持ち制としている。日常の変化や気づきは計画立案者に伝えたり、月1回のカンファレンスでアセスメントし、介護計画の見直しの情報としている。急な変化にも適切な情報提供をして計画変更に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の様子の変化(行動、言動)等、気付いた事は、日誌及び経過表に記載し職員間で情報を共有している。必要に応じて口頭でも伝達している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様や御家族の要望、意向等を踏まえ、日常業務の中で検討し、柔軟に対応したサービス提供が行えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内やドライブ等で行事を開催し、季節を楽しむ工夫をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一度、かかりつけ医の往診がある。緊急時や体調不良時等は、主治医の指示のもと、家族と職員が連携して受診を支援している。	専門科を主治医としている人を除き、同法人の医師が、かかりつけ医として月2回の訪問診療を行っており、薬の処方も受けている。医療機関受診時は家族付き添いを原則としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の利用者様の日常の様子や気づいた事は、些細な事でも看護師に報告し、指示を仰いでいる。必要時には、かかりつけ医へ報告をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、地域連携室や病院関係者、家族と情報交換・共有し、退院後に希望があれば、再入居出来る様に可能な限り事業者へ働きかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時やそれ以前の見学時にも、御家族に、専門的な治療が必要になった時は、当事業所での生活は困難であることを伝えている。状態が変化した際にも、かかりつけ医の指示のもと、御家族の意向を踏まえ今後のことを、検討し話し合っている。	利用者が重度化してきたり、終末期が近くなった場合には家族と関係者で話し合い、適切な医療機関や施設などの利用を決めている。当事業所での看取りの事例はないことを、入居契約時に家族に説明している。	住み慣れた場所で慣れ親しんだ職員と最期の時間を過ごしたいと望む利用者には看取りの選択もできるよう、組織全体で検討されたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり、各ユニットに配布している。また、年2回消防避難訓練を行い、内1回は、消防士立ち合いの元、指導をうけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2階に備蓄をしている。推進会議で災害時の地域の協力を仰いでいる。また、火災訓練は夜間時を想定して行っており、火災避難対応マニュアルは、事務所にある。	年間2回の防災訓練を実施している。直近1年では火災想定で利用者を非難・待機する訓練を行った。備蓄品は飲料水と備蓄セットと缶詰があり、ローリング・ストックを心掛けている。	災害訓練として 火災・豪雨・積雪・地震・停電などの対応が必要である。マニュアルの作成や職員研修・地域住民の協力など具体的な取り組みを期待する。備蓄品の量も3日分を備えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	羞恥心・自尊心が保たれるように、気配りを心掛けている。ケアする上でも、本人に伺ってから行うようにしている。	一人ひとりの特性を大切にし、本人の思いを聞くようにしている。入浴やトイレ介助も、利用者の意向に沿うように努力している。話しかけや言葉がけにもその人の思いに配慮した対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いに傾聴し、日常の言動、生活歴、家族からの情報を元に総合的に本人に意思決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の暮らしの中で、食事・入浴等ある程度は、決められていることはあるが、可能な限り御本人の意思や希望を尊重するように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る事は可能な限り、本人に行って頂く。入浴時の着替えの服も出来るだけ本人と職員一緒に、選んで頂いている。訪問理容美容サービスもあり、希望者様に利用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理時の味見、テーブル拭き、下膳、食器拭き等を手伝っていただいている。職員は、利用者様と一緒に食材料を同じ場所・同じ時間で頂いている。本人に合わせた食事形態を提供している。	献立表に沿って朝食・夕食は職員が調理し、昼食は外部の調理員が調理している。食事形態は軟めし・軟菜を自力でゆっくりと摂取される人がほとんどで 職員はそばで適切な支援をしている。後片付けを手伝う人もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量や水分摂取量は、個々の利用者毎に記録している。摂取量が少なくなっている時は、看護師に報告し、主治医の指示を仰いでいる。また御家族に報告し、嗜好品や補助食品等の持ち込みを依頼している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の利用者の口腔状態を把握し、口腔ケアを実施している。職員による義歯洗浄や磨き残しの場合は、介助にて残渣物を取り除いている。週に2回のポリドントによる義歯洗浄も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便の時間や仕方、失敗の有無等を利用者様毎に排泄表に記載することにより、個々のパターンを把握して、できる限りトイレでの排泄に繋げている。	パンツやおむつの適切な利用について個別性を重視している。トイレの誘導もタイミングを見計らい自立に向けた支援をしている。個々の状況に合わせたきめ細やかな支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無や回数、排泄物の形状等などに異常・異変があれば、看護師に報告し、かかりつけ医の指示を仰いでいる。自然排便を促すよう、体操なども取り入れ、水分摂取を勧めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	事業所で週2回の定期入浴を実施している。利用者の意向・体調を踏まえ調整している。入浴前にバイタル測定し、体調が万全が確認している。体調によっては、シャワー浴や清拭も随時行っている。	浴室は一般浴室である。浴槽内の利用が困難な場合はシャワー浴としている。職員と会話をしながらゆっくりと入浴が楽しめるようにしている。職員も身体状況の変化に注意しながら慎重に介助している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時は常夜灯を使用し、個室でもテレビの音を小さくするよう声掛けし安眠に努めている。不眠時・不穏時などには、本人の話を傾聴し落ち着いてもらえる様に配慮している。状況によっては、主治医と連携を図っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は、カルテに保管し常時確認できるようにしている。個々の利用者様によっては、薬の服薬支援を行い、変化や気付いた事なども看護師や主治医に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の利用者の趣味や個性を活かし、洗濯物干し・たたみ、食器洗いや掃除の家事動作の出来る事をして頂いている。職員の声掛けや自発的に進んで取り組まれている。レクリエーション・日向ぼっこ・散歩も実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節に応じて散歩やドライブで外出できる機会が持てるように支援している。現在、コロナ対策で行うことが難しいが、毎年町内BBQ大会等、可能な限り交替で全員参加していた。	コロナ感染防止で、例年どおりの計画の実践は困難であったため、桜の花見をドライブ形態に変更して実施した。日常的には事業所周辺での外気浴や、近くの公園で森林浴などを声掛けして行っている。家族面会は、玄関のガラス越しではあるが対面式で話す機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は御家族に管理していただいております。外出・外食など、必要時に用意して頂いております。本人管理も可能ですが、その場合は御家族と紛失リスク及び紛失時の責任の所在等話し合っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族の了解のもと、電話を掛ける支援と受け取る支援を行っている。利用者が希望する時にはハガキや封筒を預かり投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様と職員とで、共同作業した作品などを飾ることで、温かみのある生活空間となるように心掛けています。また、御家族の了解を得て、行事写真などをホーム内に飾り楽しんでいる。夜間は居室に光が入り込まない様に工夫している。	2ユニットの中央にホールがあり、合同で体操やレクリエーションに活用している。コロナ対策で密を避けた食堂兼居間では、適度な距離が保たれている。キッチンも近く、利用者は手伝えることは自発的に行っている。トイレは車いす等の利用者もゆったり使用できる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で縫物の作業やパズル等をされる方は合間の声掛けをしつつ、行ってもらっている。音楽の好きな方は広場で過ごされたいと思いきい過ごされている。気の合わない方は職員が間に入り会話を繋ぐ等、配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険物以外のものであれば、慣れ親しんだ家具・生活必需品などを持ち込めるように配慮している。荷物が多く危険な場合は、一時預かりしたり、御家族と相談したりしている。過ごしやすい空間作りを心掛けています。	2ユニットのうち1ユニットには全室に洗面台が設置されている。ベットはリースなので個人に合わせたものが利用できる。居室内はその人が安らげる空間として、それぞれに馴染みのものや写真などが置かれ、整然としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のご利用者の状態・状況などを勘案し、看護師とも相談しながら、見守りの基本をしつつ個々のできる事、できない事を把握して、安心・自立した生活が送れるように、支援している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害だけでなく、豪雨・地震等を含めた総合的な対策が必要である。避難経路・備蓄品や具体的協力体制など見直しが必要である。	防火対策のマニュアルを作成し、場面に応じた手順・体制を整える。	①備品を定期的にチェック。 ②防火対策の研修。 ③定期的に避難訓練を実施。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。